

健康診断を実施したときの費用は？

慣れないうちは取引があったとき、どんな勘定科目で処理すればよいのか、悩むケースもあるでしょう。そうした勘定科目の取扱いについて、新人さんと一緒に、事例をもとに学んでいきましょう。



新人さん：先輩は、会社の健康診断に行きましたか？

先輩：行ってきたよ。君も、ちゃんと時間をとって指定された病院に行くんだぞ。

新人さん：はい。病院はついつい先延ばしになりがちですけど。

先輩：健康第一だからな。せっかく会社が定期的の実施してくれているんだから、無駄にはするなよ。

新人さん：さっそく予約します。ところで、健康診断の費用は会社もちですよ。

先輩：もちろん。労働安全衛生法に基づいて、定期的の実施している健康診断だからね。

●解説

「福利厚生費」とは、企業が従業員のために提供する

給与以外のサービスにかかった費用のうち、経費に数えられるものを処理する勘定科目です。たとえば、従業員の健康診断等の医療衛生、社宅等の厚生施設、親睦、慰安、慶弔など、会社が支出したものをいいます。

従業員の労働環境を整備するための費用は、次のようなものがあります。

- ① 医療関連：常備医薬品、人間ドック等の費用
- ② 厚生施設関連：食堂給食、体育館等の費用
- ③ 親睦活動関連：サークル、親睦旅行等の費用
- ④ 慶弔関連：結婚祝い、香典、見舞金等の費用
- ⑤ 消耗品関連：制服、お茶等の費用
- ⑥ 保険関連：生命保険、損害保険等の費用

福利厚生のための費用でも、一定の額を超えたり、一部の従業員のみを優遇するようなものは、「給与」や「交際費」とみなされることもあります。

ケース1 健康診断を実施した場合の処理

従業員の定期健康診断を実施し、その料金として110,000円（税込み）を健診実施機関に現金で支払った。

【借方】	福利厚生費	100,000	／	【貸方】	現金	110,000
	仮払消費税等	10,000				

ケース2 花輪や香典を贈った場合の処理

従業員の家族が亡くなったので、慶弔規程に基づき花輪11,000円（税込み）と香典10,000円を現金で贈った。

【借方】	福利厚生費	20,000	／	【貸方】	現金	21,000
	仮払消費税等	1,000				